アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

AIとデータで地域の未来を創る商業イノベーション人材へ

佐賀県立佐賀商業高等学校（さがしょうぎょう）

全日制／商業科

類型1

この改革が必要な背景

- AI・デジタル技術の進展により、**資格取得重視の商業教育**から、**課題発見・価値創造型人材の育成へと転換**が求められている
- 簿記や販売等の基礎的な知識・技能に加え、**地域課題をデータで分析**し、**新たな商品・サービスや事業を構想・実装できる人材**の育成が必要

事業概要（学びの変化）

商業イノベーション人材の育成に向けた体系的な教育課程の構築

- ✓ **「経営を理解する力」**から**「課題を解決する力」**、さらに**「価値を創造し社会実装する力」**へと**段階的に学びを発展**
- ✓ **１年次**には、財務諸表の読み取りから実企業の分析までを行う「**BM（ビジネスマネジメント）プロジェクト**」を実施し、学んだ知識を提案につなげ**地域の企業活動を自分ごととして捉える土台**を築く
- ✓ **２・３年次**には、**新たに学校設定科目「地域アントレプレナーシップⅠ・Ⅱ」を開設**し、企業や地域が抱える課題を多面的に捉え、解決策やビジネスプランを考える学びを展開
- ✓ 指導に当たっては、起業家や大学研究者、銀行、地域企業等の**経営・マーケティングエキスパートと協働**しながら、新たな商品・サービスや事業を構想し、価値を創造する力を育む



AIとデータで、地域の課題を見つけ出す学び

- ✓ **IT企業と連携**して設置する**学校設定科目「AI・データサイエンス概論」「AI・データサイエンス応用」**で、２年次までに**全生徒がAIの仕組みやデータ活用の基礎から、情報収集・分析・企画立案**までを学ぶ
- ✓ 企業や地域の課題を感覚だけで捉えるのではなく、データに基づいて分析し、**根拠ある提案やビジネスプランの立案につなげる実践力**を育む。

アイデアを実社会で試し、新たな価値を生み出す学び

- ✓ 「**大学連携PBL（課題研究）**」において、**佐賀大学と連携**しながら、商品やサービスの試作・検証・改善に取り組む
- ✓ 試験販売や収支の検証まで行い、**アイデアを社会で実践しながら**、地域や社会に新たな価値を生み出す力を育む
- ✓ 探究活動の成果をポートフォリオとして整理し、**総合型選抜等を活用した大学進学**につなげる

＜生徒の１日の流れ（例）※商業科２年Aさん＞

【9:00】
A社に提案する商品パッケージ模型を、3Dプリンタを活用して作成



【13:00】
IT企業B社がスポットティーチャーを務める「情報処理演習」の授業を受講



【15:00】
「総合的な探究の時間」において、グローバルビジネスを学ぶ



【17:00】
放課後、「イノベーション塾」で、大学生メンターとA社のビジネスプランを壁打ち

高校生の未来の姿（指標の例）

- 総合型選抜及び学校推薦型選抜による大学合格者数
- 企画・EC・DX・マーケティング等、学習内容を生かす分野（起業・事業承継を含む）への就職割合

	（現状）	（R10）	（R13）
大学合格者数	81人	⇒100人	⇒120人
就職割合	26%	⇒ 50%	⇒ 70%



他校への普及方策

- 県内商業高校等を対象とした「ビジネスアカデミー」を開催
- 年間指導計画・教材・ルーブリック等パッケージ化し県内校へ共有　等

主な連携機関

佐賀大学、佐賀銀行、(特非)鳳雛塾、㈱テクノソリューション、　㈱オプティム　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成